

蘇南3年・川井梨瑚選手

野球で
つながる
想い

高校野球100年

3

近年、社会人野球の茨城ゴールデンゴールズに所属する片岡安祐美や、「ナツクル姫」の愛称で親しまれているプロ野球独立リーグの石川ミリオンスターズ所属の吉田えりなど女子の選手の活躍が目を見届く。高校の野球部にも所属している女子選手がいる。蘇南の川井梨瑚(3年)も野球に魅了された一人だ。だが、高校野球の大会参加資格規定では公式戦に女子選手は出場できない。「公式戦に出られないのは悔しい。でも女子選手だからできないとは思われない」。野球にのめり込んだのは1歳年上の兄の逸斗(18)の背中を見ていたからだ。

小さい頃、逸斗とキャッチボールをして野球の楽しさを知った。小学4年生で逸斗を追いかけられるように同じ少年野球チームに入った。梨瑚は外野手として、投手で活躍する逸斗を見ていた。「マウンドで堂々と投げているのがいいなって。私も兄のような選手になりたいと思いました」。その後、中学でも兄と同じ野球チームに入った。約5年間、同じグラウンドで白球を追い続けた。
2人は別の高校に進学した。逸斗は木曾青峰、梨瑚は蘇南。2人の帰

女子選手 誰よりも努力



抽選会に臨む蘇南の梨瑚(松本市)

宅する時間が違い、一緒にキャッチボールをすることもなくなったが、梨瑚が兄を選手として尊敬する気持ちは変わらなかった。

そして、昨夏。木曾青峰は2回戦で上田染谷丘に3-10のスコア負けを喫し、逸斗の高校生活最後の試合は悔しい結果に終わった。梨瑚はこのとき「来年の夏までにもっと自分の力をつけて兄の分まで野球を楽しみたい」と思った。

6月20日。箕輪進修のグラウンドで同校野球部、蓼科、蘇南の3校で練習試合があった。梨瑚は3番一塁手で出場。鋭い振りで適時打を放つなど中心打者としてチームを引っ張る存在感を示した。守っても一塁に送球される難しいバウンドを体で止め、無難なグラブさばきを披露した。プレー中の声かけも梨瑚が率先して出していた。「パワーは男子に負ける。だからミスをしたくないように人一倍練習します」

蘇南の野球部は高校から野球を始めた部員もいるため、小学生から野球を続けている梨瑚の存在は大きい。両角純平監督は「一番技術力がある選手。自分が引っ張っていくという気持ちは伝わる」と話す。チームメートも「頼りになる存在」と口々に話した。

そんな妹の梨瑚について逸斗は「3年間続けて尊敬する。頑張ってる」とエールを送る。

86チームの主将が集まった6月27日の抽選会。男子選手がくじを引く中、一人、女子選手の梨瑚の姿があった。抽選会後、「緊張しました。無事に終わってよかったです」とほっとした表情だった。

抽選の結果、蘇南は12日に野沢北と対戦することが決まった。だが、梨瑚はグラウンドには立ってない。試合はスタンドで応援団長として仲間へ声援を送る。「今まで練習でやってきたことを試合で出せばいい結果につながる。私もスタンドから大きな声を出して、みんなと一緒に戦います」

敬称略